



ほしかわ

7月号

令和4年6月24日
横浜市立 星川 小学校
校長 羽山 悟
TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



かたびらがわざっかん 帷子川雑感

副校長 木村 恵美子

高校時代に、上星川に住んでいた友人が

「昔、帷子川の水は、日によって色が変わったそうだ。」

と話していたことがあります。昭和50年代中頃の話です。当時、戸塚区に住んでいた私にとっては

あまり帷子川が身近ではありませんでした。唯一知っているのは、横浜駅の西口のよどんだ流れで、

時々浚渫(川底のヘドロや土砂を取り除く)と思われる工事を行っている姿でした。『色が変わる』つ

てどういうこと??と不思議に思ったものです。

色が変わる謎の答えはというと…。鶴ヶ峰から上星川、和田町にかけて、捺染(布に模様を染め出す)

工場が多数あったそうです。帷子川の水を利用して、染めた布を洗っていたので、染料で川の水の色が

変わったといわれているようです。昭和30年代にはもうすでに川での水洗いはしなくな

ったようなので、友人は、きっと小学生時代に学んで得た知識を話してくれたのだと思います。

さて、教師になり30年以上たって初めて旭区、保土ヶ谷区に着任し、帷子川が身近なものになりました。

旭区で担任した子どもたちは「帷子川にオイカワ(コイ科の淡水魚)がいるよ。」と教えてくれ

たり、学区の好きな風景に帷子川を挙げて絵に描いたりしていました。保土ヶ谷区では、地域の方

からサケの稚魚の放流のご案内を受けることもありました。

この春、星川小に着任し、学校だより等を地域の方にお届けするときなどに、帷子川の水面を見

ると、しみじみときれいな川になったと感じます。いつ頃からか、氾濫する話も聞かなくなりました。

きっと、行政や市民の皆さんが努力を重ねた結果なのでしょう。本校でも年間10回ほど実施するク

ラブ活動に「つりクラブ」があり、子どもたちも帷子川での活動を楽しみにしています。ヘドロを浚渫

していた当時とは大違いで、たくさんの生き物も戻ってきているのだと実感します。

折しも、今年は創立150年の記念の年で見つめる良い機会です。子どもたちには周年にか

かわる活動の中で、学校や「まち」のすてきなところをたくさん見つけて欲しいと

思います。そしてこのきれいな帷子川のある風景が「わたしたちのまちの宝物」

の一つとなり、大切にしていけることを願ってやみません。



創立150周年スローガンの横断幕
が完成しました！南館からプー
ルへの通路に、掲示してあります。